

城里型アグリビジネスの展開

県央農林事務所笠間地域農業改良普及センター

城里町は中山間地域であり、地域特産品の「古内茶」や極良食味米「ななかいの里コシヒカリ」が古くから生産されていますが、その価値が十分に活かされていないのが現状です。そこで当センターでは、その潜在能力を発揮するため、体験学習等とおした認知度アップや各種コンテストの入賞実績によるブランド力向上、新商品の開発等、産地の高付加価値づくりに取り組みました。

農業体験交流による認知度アップ

普及センターでは、城里町の特産品である「古内茶」と「ななかいの里コシヒカリ」の取組を理解してもらおうと、農業体験を企画・開催しました。「古内茶」では、地元保育園児を対象に茶摘み体験（写真1）と製茶工場見学（5月）を、「ななかいの里コシヒカリ」では、水戸ホーリーホックスクール生を対象に田植え体験（5月）やホテル鑑賞会（6月）を開催しました。参加者との交流をおして、地域特産物の価値及び発信の重要性を再認識する機会となりました。



写真1 茶摘み体験で古内茶を学ぶ



写真2 第15回お米日本一コンテストinしずおか入賞者

高付加価値でブランド力向上

J A常陸ななかいの里生産研究部会では、極良食味米生産の取組として葉色に応じた水管理を徹底しています。食味値85以上のAランク率が69%から80%に向上し、「第15回お米日本一コンテストinしずおか」では会員3名が金賞を受賞しました（写真2）。現在、地元の直売所「山桜」では白米1kg入660円という高値で販売され、消費者の認知度が向上しています。また、部会では新たにGAP認証に向けた取組も始まりました。

地域特産品「古内茶」産地の活性化

J A水戸古内茶生産組合を対象に、土壌分析や栽培講習会、茶の成分分析等品質向上に取り組み（写真3）、第57回茨城県茶業振興共進会では2名が入賞しました。また、古内茶の販売拡大のため、城里町地域おこし協力隊と連携して「ティーパックミニ」や「紅茶」を開発・販売し好評でした。今後はブランド化に向けて産地で話し合いを行うことになりました。



写真3 新茶審査会で今年の品質を確認